令和３年10月７日
教育委員会10月定例会
報告事項
美術館運営課

# 令和２年度 横須賀美術館運営評価報告書について

横須賀美術館は、毎年度運営の評価を行っています。このたび、令和２年度の評価結果を報告書としてまとめました。

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は１年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

評価全体の流れはPDCAサイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P:Plan)し、実行(D:Do)していき、その内容を評価(C:Check)し、これを改善(A:Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

## １　評価項目

評価項目は美術館の設置目的に沿った「使命」と「使命」に基づいた８つの「目標」があり、それぞれの目標には、数的指標である「達成目標」と質的指標の「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく以下の項目となります。

令和２年度の運営評価については、令和３年７月開催の令和３年度第１回運営評価委員会で行いました。

### Ⅰ美術を通じた交流を促進する

#### ①　広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・年間観覧者数110,000人以上 |
| 実施目標 | ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。　他４項目 |

#### ②　市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人<br>（事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して） |
| 実施目標 | ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。　他１項目 |

## Ⅱ美術に対する理解と親しみを深める

### ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・企画展の満足度 80%以上 |
| 実施目標 | ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間６回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。　他５項目 |

### ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・中学生以下の年間観覧者数 22,000 人 |
| 実施目標 | ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。　他５項目 |

### ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・環境調査の実施（年２回）<br>・美術品評価委員会の開催（年１回） |
| 実施目標 | ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。<br>他３項目 |

## Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

### ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・館内アメニティ満足度 90%以上<br>・スタッフ対応の満足度 80%以上 |
| 実施目標 | ・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。　他２項目 |

### ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・福祉関連事業への参加者数延べ 320 人以上 |
| 実施目標 | ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。 他２項目 |

### ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

| | |
|---|---|
| 達成目標 | ・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均値を目安とする。 |
| 実施目標 | ・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。 |

## 2　横須賀美術館運営評価システムの概要

（1）自己点検の一次評価と、運営評価委員会の二次評価による評価。

（2）一年度の活動を翌年度に評価。

（3）３つの使命、８つの目標に基づく事業体系とした評価。

（4）目標ごとに達成目標（数的指標）と実施目標（質的指標）による評価。

（5）評価基準はＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの５段階で表示。

Ｓ：優れた成果を挙げている

Ａ：目標を達成している

Ｂ：目標をほぼ達成している

Ｃ：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

Ｄ：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

上記のほか、Ｆ：判定不能を設けています。

【令和２年度　一次評価からの追加部分】

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業の中止を余儀なくされました。したがって、一次評価にあたっては、横須賀美術館として、次のような評価方針のもと、一次評価を実施しました。

１　年間を通じた数量で評価するもの　⇒　<u>Ｆ判定</u>

①【達成目標】年間観覧者数 110,000 人以上

②【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,400 人

④【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

⑦【達成目標】福祉関連事業への参加者数延べ 320 人以上

⑧【達成目標】電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均値を目安とする。

２　アンケート結果で判断するもの　⇒　<u>取得できたアンケート結果をもとに判定</u>

③【達成目標】企画展の満足度 80 ％以上

⑥【達成目標】館内アメニティ満足度 90 ％以上
スタッフ対応の満足度 80 ％以上

３　年間を通じた活動実績で評価するもの
上記以外

## 3　令和２年度の評価について

### 使命Ⅰ　美術を通じた交流を促進する

#### ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【達成目標】年間観覧者数 110,000 人以上　令和２年度実績　48,827 人

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | F | F | ・残念ながら、コロナ禍でやむを得ない。 |
| 実施目標 | A | A | ・「ウェブで楽しむ横須賀美術館」等の所蔵作品の公開など、コロナ禍の状況下での新しい取り組みが今後の美術館に向けての市民の関心度の高まりに結びつくのではないか。<br>・コロナ禍において、WEB や SNS を活用し、できる限りの努力をしている。<br>・コロナ禍でも WEB 等で発信し、存在感、興味を維持するために懸命に努力し、SNS（ツイッター）フォロワー数が増加したことは今後につながる流れとして高く評価する。 |

#### ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,400 人

令和２年度実績　０人

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | F | F | ・市民参加型の運営は、今後、リモートワーク等も検討し、速やかに立ち上げてほしい。 |
| 実施目標 | F | F | ・人を集めることができない中で、やむを得ず「F」とするが、オンラインコンテンツの検討など、前向きな取り組みを評価する。<br>・オンラインコンテンツを年度中に 11 本公開できた点を高く評価したい。<br>・これまでのボランティア活動と同じ活動をできる日がいつ来るのか不安であるが、いろいろ模索したい。 |

**使命Ⅱ　美術に対する理解と親しみを深める**

**③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす**

【達成目標】企画展の満足度80%以上　令和２年度実績　90.0%

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | A | A | ・全体数が少ない中で、来館者が満足できる演出を心掛けた結果が表れている。<br>・数値目標については、総合的にみて目標をはるかに上回る成果を得ている。<br>・「解説」の評価については、分析が必要である。<br>・上田薫展、倉重光則＋天野純治展など、独自の企画力を発揮した展示会は横須賀美術館ならではと評価する。 |
| 実施目標 | B | ※A | ・コロナ禍により企画展の中止などはあったが、目標設定としている「図書室を含めての社会教育機関としての美術館」としての知的好奇心を満足させる事業、その内実化に向けての働きかけを評価した。<br>・企画展そのものが制限されたにもかかわらず、高満足度が維持できていることは、定性的にも評価に値する。<br>・数値目標の未達は、コロナ禍の影響が明らかであるため、評価対象にならないと考える。一部開館の努力やYouTube配信などでの事業補完も評価対象とするべきである。<br>・今の状況では、やむを得ない。<br>・オンラインでの動画公開が良かった。 |

※二次評価で評価が上がった理由

コロナ禍で企画展の中止などがあったが、事業の代替えとしてのオンラインでの動画公開等も含めて評価していただいたため。

### ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人　令和２年度実績　5,789 人

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | F | F | ・今回はやむを得ないが、この活動が横須賀の文化の担い手を育成するきっかけを作る意味で今後とも重要である。 |
| 実施目標 | B | B | ・コロナ禍の状況下でのオンラインによる鑑賞支援の試みなど、今後に向けての Web に関するノウハウの習得の機会となった、その活動は評価したい。しかし、コロナ禍の小・中学校の休校措置等の問題、児童・生徒の日常的な生活に対して、種々の学校の指導が執り行われた状況下では、特別の事態として捉え、評価は別枠で考えることが必要である。<br>・学校教育との接点が閉ざされる中で、アートカードやオンライン鑑賞会などの積極的な取り組みは今後の事業展開にも大きなプラスとなる。<br>・コロナ禍の影響でオフラインの事業が十全に展開できなかった状況をオンラインの活動で補完し、今後の活動に向けたノウハウの構築と蓄積ができたことを評価したい。<br>・“可能な範囲での最小限の活動”から得た“最大限の成果” |

### ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

【達成目標】環境調査の実施（年２回）、美術品評価委員会の開催（年１回）

令和２年度実績　環境調査２回実施、美術品評価委員会１回実施

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | A | A | |
| 実施目標 | B | B | ・コロナ禍に起因するやむを得ない未達は、評価対象にならないと考える。所管部局と協力し、購入の道筋をつけた点は、開館以来の懸案であったことに鑑み、高く評価されるべきである。<br>・懸案の作品購入への一歩を踏み出したことは、高く評価できる。 |

**使命Ⅲ　訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する**

**⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する**

【達成目標】館内アメニティ満足度　90%以上、スタッフ対応満足度　80%以上

令和２年度実績　館内アメニティ満足度　95.7%

スタッフ対応満足度　92.9%

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | A | A | ・いずれも90%を上回る満足度を示しており、目標をはるかに上回っていると評価すべきである。 |
| 実施目標 | A | A | |

**⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える**

【達成目標】福祉関連事業への参加者数延べ320人以上

令和２年度実績　８人

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | F | F | |
| 実施目標 | B | B | ・評価項目から見て達成目標「F」では、実施目標に関しても「F」が妥当ではないかと考える。<br>オンライン版「みんなのアトリエ」は評価すべき事項であるが、今後の活動としてその成果を別枠で記載したらどうか。<br>・今後もリモート開催は継続すると思うので、「みんなのアトリエ」のYouTube配信の視聴回数などを記録として残すことは意義がある。<br>・コロナ禍の影響でオフラインの事業が十全に展開できなかった状況をオンラインの活動で補完し、今後の活動に向けたノウハウの構築と蓄積ができたことを評価したい。福祉事業所スタッフ向けのワークショップを実施できたことは大いに評価したい。<br>・今年度は、ここをA評価にしていく努力をお願いしたい。 |

**⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する**

【達成目標】電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均値を目安とする。

| | R02（目標） | R02（実績） |
|---|---|---|
| 総電気使用量（kwh） | 2,578,112 | 2,186,586 |
| 水道使用量（㎥） | 4,717 | 3,464 |
| 事務用紙使用枚数（枚） | 242,016 | 188,200 |

| 項目 | 一次評価 | 二次評価 | 評価委員会コメント |
|---|---|---|---|
| 達成目標 | F | F | |
| 実施目標 | A | A | ・職員の在宅勤務、美術館の休館日等を考慮すると、達成目標「F」の状況での実施目標を評価することは難しいのではないか。しかし、職員の皆さんの効率的な運営・管理の成果については評価されるべきであるが、達成目標が組まれた条件と異なるので、別枠の記載方法が講じられてしかるべきではないか。 |

※詳細は別添「令和２年度　横須賀美術館　運営評価報告書」のとおり

## 4　今回（令和２年度）評価時にいただいた意見等に対する今後の取り組み等について

| 使命Ⅱ　美術に対する理解と親しみを深める<br>目標③　調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす | |
|---|---|
| 【評価委員会からの意見等】 | 【今後の取り組み等】 |
| ・初回来場や２回来場の人が満足度60%以上などの指標があってもよいのではないか。<br>・アンケートの母数が少なすぎるとミスリードしてしまうことがある。母数を増やす努力をしていただきたい。 | ・母数を増やす工夫を検討する。<br>・通年で一定数のパーセンテージのアンケート回収を目指していく。 |

| 使命Ⅲ　訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する<br>目標⑦　すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 | |
|---|---|
| 【評価委員会からの意見等】 | 【今後の取り組み等】 |
| ・いわゆるリアルとリモートの融合というか、事前学習としてリモートを活用して、それをもとにリアルに美術館でというように、ハイブリッドの形のトライアルもこれから考えられるのではないか。 | ・いただいたご意見をもとに、ハイブリッドの形も模索していく。 |

## 横須賀美術館運営評価委員会　委員名簿

| | 氏　名 | 役職等 | 区分 |
|---|---|---|---|
| 委　員　長 | 小林　照夫 | 関東学院大学名誉教授 | 学識経験者 |
| 委　　員<br>（委員長職務代理者） | 菊池　匡文 | 横須賀商工会議所専務理事 | 関係団体の代表 |
| 委　　員 | 柏木　智雄 | 横浜美術館副館長 | 社会教育関係者 |
| 委　　員 | 濱田　真行 | 観音崎京急ホテル社長 | 関係団体の代表 |
| 委　　員 | 三浦　匡 | 横須賀市立馬堀小学校校長 | 学校教育関係者 |
| 委　　員 | 中村　泰久 | 市民委員 | 市民 |
| 委　　員 | 小林　惠 | 市民委員 | 市民 |